

令和元年 8 月 7 日

## 「気候変動に対する適応を考えるシンポジウム」と 気候変動影響研究に関する学生表彰と論文掲載のお知らせ

気候変動影響の課題，SDGs への展開をふまえて、令和元年 7 月 24 日（水）に「気候変動に対する適応を考えるシンポジウム」が開催されました。本シンポジウムでは、災害リスクに関連した後援や活発な議論がなされ、将来への安全に向けて取り組まなければならない事柄が提案されました。

また、議論された内容に関する研究活動において鈴木皓達氏（大学院共生システム理工学研究科 1 年生）が表彰され、Le THI Thanh Thuy 氏（大学院共生システム理工学研究科博士課程修了生、現 Thui loy 大学 講師）の論文が掲載されました。

文部科学省 気候変動適応技術社会実装プログラム SI-CAT、阿武隈川改修 100 周年事業実行委員会、（一社）東北地域づくり協会、土木学会地球環境委員会が共催の「阿武隈川改修 100 周年事業 気候変動に対する適応を考えるシンポジウム - 気候変動と阿武隈川流域圏の将来像 - 」が開催され、講演、パネルディスカッションが行われました。気候変動適応法の施行（平成 30 年 12 月 1 日）より地域における気候変動の適応計画が推進されることにあわせて、郡山市が SDGs 未来都市に選定された（令和元年 7 月 1 日）背景もあり、行政関係者、民間企業、市民が多く参加し、気候変動に対する影響と適応に対する貴重な講演と活発な議論がなされました。また、このシンポジウムを通じて、社会実装可能な適応策の実現に向けた将来像の設計へ資することのできる優先的な提案もなされました。

また、気候変動に関して、気温上昇とあわせて、降水量が増加し、災害の激甚化が危惧されています。こうした背景にあわせて気温上昇に伴う可能最大降水量（PMP：Probable Maximum Precipitation）の研究を精力的に進めています。この研究活動において、鈴木皓達氏（大学院共生システム理工学研究科 1 年生）が表彰され、Le THI Thanh Thuy 氏（大学院共生システム理工学研究科博士課程修了生、現 Thui loy 大学講師）の論文が掲載されました。

（お問い合わせ先）

共生システム理工学類教授 川越 清樹

（文部科学省 気候変動適応技術社会実装プログラム SI-CAT 参画技術開発機関）

電話：024-548-5261 メール：kawagoe@sss.fukushima-u.sss.ac.jp